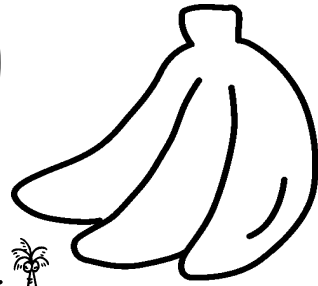


ばななだより

草笛学園 2026年6月



* 生活の流れを身につけ(近い)見通しをもって生活する力

〈略〉今の子ども達の多くは「指示待ちっ子」です。一つひとつ指示されないと生活行動がスムーズにできないという状況が見受けられます。それは、これまで非常に細切れの指示の中で生活してきたからだと考えられます。

〈略〉今の子どもたちが、「早くしなさい」と細切れの指示を受けて、追い立てられるように生活している姿を思い浮かべることができます。朝目覚めた時から、「早く起きなさい。早く着替えなさい。早くご飯を食べなさい。『いただきます』を言いなさい。…」等々と言われ、それを一つずつこなしながら生活しているようです。これでは、子どもたちが本当の意味で生活の主人公になっているとは言えません。受け身なのです。

「でも、うちの子どもは、一つずつ言わないと何もしないのです」とおっしゃったお母さんもいらっしゃいました。その方の気持ちもよく分かります。けれど、今まで何年間か育ててきた過程のなかで、子どもが受け身になってしまったのです。子どもの責任ではなくおとなの責任なのではないでしょうか。おとなの方が、その関係性をどこかで切り換えていかなければなりません。

保育所の先生から、次のような話を教えてもらったことがあります。その先生は、転勤で保育所が変わりました。新しい保育所で、初めて会う四歳児を担当しました。そのクラスの子どもたちは、「先生、次、何スルノ?」「次、何シタライイノ?」と、しばしば聞きに来るのだそうです。先生は、最初は一つひとつ答えていました。でも、常に指示を待っている子どもたちは、あまりにも生活態度がうけみなのではないかと感じ、途中から対応を変えてみました。「あなたは何がしたいの?」「あなたは何をしたらいいと思う?」と聞き返すようにしたのです。すると、次第に子どもたちは、「先生、次は〇〇ヲスルンダッタヨナァ」と確認に来たり、「先生、〇〇シタイノダケド、シテモイイ?」と了解を求めに来たりと変わっていったそうです。

子どもが生活や活動の見通しを持てるように、おとなは工夫をしなければならないということが分かります。保育所の中だけではなく、家庭の生活においても同様のことが言えるでしょう。

たとえば、毎日の生活日課をきちんと確立しましょう。同じリズムで同じ活動を繰り返す中で、子どもは生活の流れを理解し、「コレノ次ハ、アレヲスル」ということが分かるよ

うになっていきます。そして、毎日の生活と違うことをする日には、子どもが分かってもわからなくても、前もって説明しておく必要があります。突然、「さあ、〇〇をしなさい」と言われても、子どもは混乱してしまうでしょう。時計が読めなくても、「〇時になったら、こうするからね」と予定を前もって説明しておくことが大事なのではないかと思えます。生活の中には「時間」があることを少しずつ伝えていきましょう。

子どもが周りからの指示で追い立てられて生活するのではなく、子ども自身が見通しを持ちながら生活するということが大切です。それが、本当の意味で子どもが生活の主人公になれるということなのではないでしょうか。

* 学校への期待を育てる

〈略〉子どもは、小学校へ入学する際、大変な緊張感があります。保護者の方も、わが子を小学校へあげる時には、大きな期待と合わさった緊張感があると思いますが、子どもにはより大きな不安と期待と緊張感があるのです。学校は、建物も大きいし、そこにいるお兄さんやお姉さんたちの身体もみんな大きいという状態があります。保育所や幼稚園では年長の自分たちが一番大きかったのに、今度は一番小さくなってしまいますから、その不安と緊張感は大変なものだと想像することができます。

その不安や緊張感を煽るように、学校を脅しの材料に使い、子どもをきちんとさせたい時に「学校、学校」とチラつかせることは、子どもにとって良いこととは思えません。「お兄ちゃん(お姉ちゃん)になったね」ということを確認する時に、「もう学校に行けるのねえ」と学校を話題にし、子どもの成長をともに喜びあうのなら良いと思います。入学前に学校への不安や緊張感を高めないように配慮したいものです。

参考文献:小学校までにつけておきたい力と学童期への見通し 丸山美和子・著

8月のばなな教室

ばなな①: 8月 6日(木) 13:00~

活動・・・『 プール 』 持ちもの・・・水着・水泳帽・タオル・水筒

ばなな②: 8月20日(木) 13:00~

活動・・・『 プール 』 持ちもの・・・水着・水泳帽・タオル・水筒

※雨天の場合は、サーキット等、室内でできる活動をします。

参加される皆様へ』 ~ご協力をお願いします~

- ・お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
- ・おやつ代100円いただきます。おつりのいらぬよう、ご用意ください
- ・靴は、下駄箱に入れて下さい
- ・水分補給のため、お茶を持ってきて下さい(ジュース類は避けてください)
- ・ケガ防止のため、爪を切ってきてください37.5度以上の発熱がある時は参加をお控えください